

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成22年5月 2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900399	
法人名	有限会社ケア・プラザ	
事業所名	ケア・プラザすみれの里	
サービス種類	認知症対応型共同生活介護	
所在地	〒584-0024 富田林市若松町三丁目9番20号	
自己評価作成日	平成22年4月5日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

終末期の看取りケアにも対応可能であり、協力医療機関と24時間体制で取り組み、利用者や家族の安心に繋がっています。

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非活動法人 評価機関 あんしん
所在地	〒596-0808大阪府岸和田市三田町 1797
訪問調査日	平成22年4月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「ケア・プラザすみれの里」は近鉄南大阪線富田林駅から徒歩15分の閑静な住宅街の一角にある。純和風の建物で、手入れの行き届いた広い庭からは和泉山脈が見渡せる景観のよい環境の中にある。事業所では利用者の意思及び人格を尊重し、ゆったりと見守るケアをしている。天候のいい日は毎日、散歩を兼ねて近くのお大師さんにお参りに行き、湧き水を取ってきている。毎日の生活リハビリもあって、介護度が維持されている。最大の楽しみである「食」に重きを置き、利用者はゆっくり、職員と共に食卓を囲んで食事を楽しんでいる。近くの医療機関との連携もよく、看取りのケアにも対応する取り組みを行っている。運営推進会議の定期的な開催が課題であったが、最近介護に理解のある民生委員の協力が得られ、今後は定期的な開催が期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し実践につながるよう努めている。○付き添い寄り添い見守るケア ○出来る事はお手伝い出来ない事を見出すケア ○言葉使いは尊敬と意をこめて優しくゆっくり ○好みの献立を温かいものは温かく冷たいものは冷たく ○散歩、買物の励行	理念を玄関、事務所、居間に掲示している。職員は1週間に1度、ミーティング時に理念を唱和し共有して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩、外出時の出合いで挨拶を交わすようになり声かけしてもらえたようになった	自治会、老人会の行事や地域活動の参加は少ない。天気のよい日には毎日の散歩で近隣の人々と挨拶を交わし、馴染みの関係が出来ている。	運営推進会議の定期的開催に伴い、地域とのつながりを深め、地域住民と積極的な交流が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談ポスター等掲示し通りがかりの人から相談も気楽対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護状況、家族の相談など報告している。（特に認知症について）	運営推進会議の参加メンバーについては管理者の永年の懸案であったが、認知症に理解のある民生委員の協力が得られるようになり、2、3ヶ月に1回会議を開催出来る状況になっている。	管理者の積極的な働きかけにより、今後定期的に運営推進会議を開催することが期待できる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の高齢介護担当の方には利用者の空き状況、運営推進委員会と町内の関わりについて相談している。	管理者は地域とのかかわりについて相談するなど、市の担当者と常に連絡を取っており、情報を共有している。市担当者から案内のある研修会や勉強会に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体的拘束は行っていない。	玄関、事務所に拘束0宣言を掲示している。職員は身体拘束をしないケアについて理解している。鍵をかけない暮らしの大切さも理解し、玄関は施錠していない。門扉は急な階段に繋がっているため施錠しているが利用者の安全を確保しつつ抑圧感のないよう、さりげなく見守っている。	

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティング時の勉強会での学習スタッフが単独での勤務が無い様な勤務体制をとっている。(夜勤・宿直が両方)</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>ミーティング時の勉強会に於いて学習している。すでに後見人制度を使っている利用者もいる事から理解し支援している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、本人様、家族様に介護保険制度の仕組みと当ホームのサービスの資料をもとに理解して頂く様説明している。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会、面接時等話す機会を作っているが運営推進委員会においても行っている</p>	<p>家族会の開催は難しいが、運営推進会議に参加される家族もあり、訪問された際には意見を伺うよう努めている。家族の要望をきくため、アンケートをとることを計画し、まず、「食」について実施、食べたいものを聴取し、献立に活かしている。</p>	
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回のミーティングに於いて代表者より報告があり、話し合いもできる。</p>	<p>月1回、ミーティングを開催している。職員は日々のケアに関しては、管理者に相談し、事業所全体では話し易い雰囲気である。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>内部研修、外部研修の機会をもち各自向上に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部、外部研修に参加できるよう声かけと機会を設けている。また伝達研修もある。</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>なわなワネット研修で施設部会に参加する事で伝達研修を行っている。パンフレットの交換も行っている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族的な雰囲気作りに心がけている事でどんな事でも相談してもらえるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時説明と同時に家族様、本人様の要望をしっかり聞く事でサービス内容が確保され安心してもらっている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分な聞き取りと観察により何を優先するか他のサービス利用も踏まえて対応する。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>常にニーズに添った介護の中で今までの行き方など傾聴する事で関係を築く。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>昔の思い出話を重視し、その上で家族様とのパイプ役を行っていく。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の住んでいた家に同行し思い出してもらったり、電話などで連絡を持ってもらう様支援している。	利用者の馴染みの美容院や理髪店に職員と一緒にいたり、その帰りには喫茶店に寄ったりすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が接点を持つ事が出来る様にひとつのテーマを提供し思いを発言できる様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなっている方が殆どで接点がないのが現状です。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りコミュニケーションをとり介護の中で希望を組み本人様本位な実施に取り組んでいる。例として毎日外出したい。	利用者自身の意向を汲み取り、把握に努めている。本人の希望に添えるように職員同士で情報の交換をしている。折り紙や塗り絵、古いアルバムを見たり、時には童謡を歌ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	基本情報の把握と日々会話の中でくみ取り反映する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の観察の中で把握し“好きな事”への支援をしている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>面会時要望の確認と介護計画に同意をしてもらう。（本人様家族様の希望に添った介護計画）</p>	<p>家族の訪問時に希望や意向を聴取している。介護計画は定期的（3,6ヶ月ごと）に見直しを行っている。面会の少ない家族には電話をかけ、利用者の状態の報告したり、介護計画に変更のある時は説明し了解を得ている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>朝夕の引継ぎ時に話し合いを行っている。（身体の変化ノートをもとに）</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の都合に合わせた個別の対応に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>びあ介護相談員の受け入れ。中学生の体験学習の受け入れ。消防署の指導。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>提携医はいるが、症状に応じた医療機関を受診している。（家族様の要望も重視している）</p>	<p>協力医の往診が週1回ある。看護師も週2回事業所を訪問している。利用者、家族等の希望を大切に、かかりつけ医による医療が受けられるよう支援している。受診後にはその結果を家族等に報告している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>日常の健康管理を記録し、医師・看護師訪問時報告する事により指示をうけている。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域医療連携と主治医との話し合いにより利用者と家族の要望を反映する。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針を入居時や状態が悪化した時主治医を交え医療連携体制と看取り指針を作成し確保している。（家族様との話し合いの上医療機関とのつながり）	利用者や家族等とは入所時に終末期のあり方についての指針を基に話し合いを行っている。また、主治医、看護師との連携体制は取れている。今後重度化や終末期の対応方針の話し合いの記録を残されることが望まれる。	利用者の症状に応じて関係者間で話し合いを繰り返し、話し合った内容を記録に残していくことが望まれる。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部、外部研修で勉強した事をさらに学習する事で実践力につなげている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えた連絡網が出来ており、すぐ行動できる様になっている。（役割分担・消防署の指導も受けている）	防災訓練年2回実施し、職員は消火器の使用方法などの講習を受けている。避難経路について隣家の理解は得られている。運営推進会議で地域の人々の協力が得られるような働きかけが望まれる。	災害時には地域の協力が不可欠であり、理解を得られる取り組みを期待する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基本にした言葉かけと対応を行っている（前向きなせいで生活できる様対応している）	利用者の個人情報はその取り扱いに留意し、鍵のかかる書庫に保管している。職員は利用者への言葉かけや対応には十分注意するよう心掛けている。プライバシーに関する研修やミーティングも実施している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、好みのお茶を聞いてあげる事で意志の表現を促している		

38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>折り紙、パズル、ボール投げ等その人の好みのレクリエーションを用意し毎日の生活に組み込んでいる。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>整容の声かけと出来ない人はお手伝いをして鏡の前で整える（髪飾りをつける人も）</p>		
40	<p>15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>可能な限り野菜の皮剥きなど調理の参加に声かけ支援に努めている。（楽しみながら、自分の調理したもの物を食べる楽しみを感じてもらえるように）</p>	<p>1週間に1度、生活協同組合から食材を購入している。利用者の希望を聴き取り、季節感に配慮した旬の食材を取り入れた献立を職員が立てている。利用者は職員と一緒に話しながら準備や配膳をし、楽しく食事をしている。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>支援している。例えば希望される方はおかわりを水分摂取をできるだけ促し、摂取しても様記録確認している。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>週1回の歯科衛生士による検診と毎食後の口腔ケアの声かけと誘導の徹底</p>		
43	<p>16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>時間を決めてトイレ誘導する事によりトイレで排泄が出来ている。</p>	<p>排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄が気持ちよく出来るように支援している。</p>	

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日々の献立と水分摂取により行っている。医師の指示により便薬を服用している人もいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日は決めているが、希望があればいつでも入浴できる様にしている。(体調も考慮している)</p>	<p>同性介助が原則であるが、異性介助の時もある。入浴は週2回と決めているが、希望があればいつでも入浴できる。入浴拒否の利用者にはシャワーでの対応や職員が言葉かけを工夫するなど入浴を楽しめる支援をしている。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その人に合わせて昼寝、就寝時間は自由にしてもらっている。</p>	
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>努めている。各利用者の服薬表を目のつく場所に張ってある事で確認し理解している。</p>	
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物たたみ、シーツたたみ、廊下拭き、その人の好みのお手伝い声かけに努めている。</p>	
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日の散歩、可能な方には理美容に関して店を利用できる様支援している。</p>	<p>近くの公園への散歩や清水大師様へのお参りなど天気の良い日には毎日外出している。また、花見、紅葉狩りなど利用者の希望を取り入れ、家族等の協力も得ながら戸外に出かける取り組みをしている。</p>

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買物同行のとき欲しいものをお金を使って買う事の喜びを感じてもら様支援している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話が多い。他の利用者に取り次ぎなども支援している。書ける方には手紙を書いてもらうよう支援している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテン、季節の花、イスの移動により工夫している。</p>	<p>玄関には季節の花や五月人形の「兜」が飾ってある。居間には使い慣れたソファがあり、壁にはチラシをちぎって作り上げた絵を掲げている。大型テレビもこの位置からでも見られるよう配置している。広い庭には菜園があり、遠くには和泉山脈の山並みが見渡せる。また、ベランダでは老犬が飼われており、ガラス越しに尻尾を振り利用者を和ませている。生活感や季節感を取り入れて居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人になりたい時自由に居室へ行けるように、また気の合う人と会話が出る様に座る場所の気配りをしている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>写真、カレンダーなど</p>	<p>居室には、使い慣れた時計やラジオ、枕、以前住んでいた家や懐かしい家族と共に写っている写真などを飾り、利用者が昔を思い出しながら居心地よく過ごせるように工夫をしている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>その人に応じ自立支援に努めている。犬の世話、拭き掃除、食器洗いなど好みのお手伝いを促している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない